会報　2023 年 3 月号

日本ニュージーランド協会（関西）　　創立 1970 年 11 月 11 日

New Zealand Society of Japan, Kansai

Under cherry trees there are no strangers

(Issa)

コロナ禍が少し収束し３年前の状況に戻りつつありますが、油断大敵です。今後も３密に留意してお過ごしください。２年遅れでしたが、幸いにも昨年１２月１０日に創立５０周年記念例会を開催することができました。当会は、全国に約３０組織ある NZ との交流団体の老舗としてこれからも草の根交流を推進してまいりたいと存じますので皆さまの更なるご指導・ご支援を賜りますようお願い申しあげます。

■会員総会　と　き：４月１６日（日）１０時３０分～１２時００分
　　ところ：長居植物園内・花と緑と自然の情報センター

Napier Harbou（松沼清司）

創立 50 周年記念例会

日本ニュージーランド協会（関西）
〒558-0004　大阪市住吉区長居東 2-17-28,407(石井気付)
電話・Fax：06-6607-2112
http://nzsocietykansai.com　E-mail:nzsjk@yahoo.co.jp

■　会員総会のご案内

と　き：4 月 16 日(日)10 時 30 分～12 時 00 分

ところ：長居植物園花と緑と自然の情報センター
　　地下鉄御堂筋線長居駅３番出口から 10 分

詳　細：同封資料をご参照ください。

■　創立５０周年記念例会ご報告

コロナ禍の影響で２年遅れになりましたが、昨年１２月１０日、創立５０周年記念例会（クリスマス例会兼）は役員・会員等のご尽力をいただきお陰様で予定通り中央電気倶楽部で２９名のご出席のもと開催することができました。紙面をお借りして厚くお礼申しあげます。

尚、ご出席いただけなかったヘイミッシュ・クーパーNZ 大使、山崎弘子日本 NZ 協会会長、柳田勘次当会名誉会長、客員会員のアレキサンダー・ベネッツトさん、ピータ・マシウスさん、イアン・フォーロンさん、酒井・ケイツ・ミカさんからのお祝いメッセージはプロジェクター上映と資料コーナーで展示いたしました。

ご承知の通り、当会は大阪万博の 1970 年に東京にある日本ニュージーランド協会から独立し、川瀬勇氏が初代会長に就任、全国に約３０組織ある NZ との交流団体の老舗として活動してまいりました。式は黙祷から始まり石井久行会長の開会挨拶、奥洞恵子全国日本ニュージーランド協会連合会会長の来賓挨拶、ペルー出身のフローレス兄弟のミニ・コンサート、ポカレカレアナときよしこの夜の合唱、松元舜副会長の NZ 大使館訪問報告、NZ 産ラム肉・ワインの食事、近況報告、クイズ、プレゼント交換、バザー等多彩な内容で好評を得ることができました。

（出席者：奥洞恵子・奥洞憲仁・山田輝子・塙幸子・林園子・林弘子・山内龍男・山下誠二・山下淑子・山下明・平瀬拓也・佐藤敞・藤村琇子・石井久行・服部雅裕・服部正子・松沼清司・松沼美枝子・堤美代子。松元舜・井上佳久・中村重夫・雪田隆・雪田直子・浜中謙治・齋坂博正・林進・ヘススアンヘル・奥川晴子　―順不同―）

■　嵐山　大河内山荘見学（第 282 回例会）

2022 年 11 月 16 日大河内山荘見学と 50 周年記念例会の準備のための第 4 回理事会に出席しました。予定が 11 時に大河内山荘集合であったので、石井会長からの勧めもあり、先にこの近くにある、福田美術館に寄ることにしました。無理をして早起きをし 7 時前に家を出、9 時前に JR 嵯峨嵐山駅に着きました。福田美術館は１０時開館だったので、その間久しぶりに渡月橋に行ってみることにしました。心配なのが天気でした。天気予報では肝心な大河内山荘の見学のころから曇りそうでしたが、この時点ではまだ青空が見られました。

渡月橋

コロナがひと段落し、ニュースでは京都の観光客がまた増えてきている様子が報じられていたのですが、まだ早かったせいか、渡月橋まで道路沿いの紅葉を見ながら、本来の静かな京都を味わうことができました。

しかし渡月橋でしばらく写真を撮っていると、どんどん人が多くなってきましたので撮影をやめて桂川に沿って福田美術館に向かいました。

『福田美術館』はこじんまりとしています。開館と同時に入場しました。入館料は一般・大学生は 1.300 円、受付の女性に勧められすぐ近くの『嵯峨嵐山文華館』と共通のチケット（大人 2000 円）を購入しました。

『芭蕉と蕪村と若冲』の展覧会が前記の 2 館に分かれて開催されていました。芭蕉の〈野ざらし紀行図〉、蕪村の〈猛虎飛瀑図〉、若冲の〈蕪に双鶏図〉その他が展示されていました。若冲の絵のイメージは繊細緻密な絵だったのですが異なった作風のものも有り驚きました。

2 館とも桂川の景観を生かした建物で縁側風の屋内通路からはこの景色を楽しめます。集合の時間が迫っていたため駆け足で観たのは残念でした。嵐山公園を、急いで通り抜けて、ギリギリ集合に間に合いました。福田美術館は 2019 年に設立された新しい美術館で、江戸時代から近代の日本画約 1500 点所蔵しています。設立者である『福田吉孝』氏はテレビのコマーシャルでおなじみの消費者金融のアイフルの創業者です。

11 時大河内山荘に到着しました。大河内山荘庭園は戦前から戦後にかけた映画俳優の『大河内傳次郎』によって造られた庭園です。自らが計画設計し、昭和初期から時代劇スターとして得た収入をこれにつぎ込み、約 30 年かけて完成させた庭園です。当時は、共演した大スターの高峰秀子・片岡千恵蔵・山田五十鈴・京マチ子などが招待されたそうです。

入場料 1000 円でチケットを買い入場しました。するとすぐ目の前に小さな広場と【茶席】が見えます。　入場料に抹茶と茶菓子がついているので、この茶席で第 4 回理事会が開かれました。

茶席前広場

理事会後秋晴れに恵まれた庭園を自由に散策しました。まず目に入ってきたのが【大乗閣】、内部は見学できなかったのですが伝統様式の建物と庭の木々、その奥の嵐山の借景と重なり合いまさに絵になる景色です。

またここからは東の方向に比叡山・大文字などが借景として望ことができる景色が広がっています。この日は一日中晴れたり曇ったりしておりましたが、晴れたタイミングで写真が撮れて幸運でした。

大乗閣

庭園からの狭い小径には外国の家族の方が先に来られていました。子供たちは、しばらくするとあきてしまう様なのですが、大人は写真を撮りこの景色に長く見入っていました。

そして次の景色を求めて少し小径を登ると木々に囲まれた園路に出会いました。いつも「木漏れ日」を求めている私にとってはもう少し鬱蒼としていて、光がステンドグラスや、光の帯として漏

れてくれたらと思いましたが、かなり満足できる空間です。ここを進むと【持仏堂】が見えてきます。持仏堂は大河内山荘初期の建物で、大河内傳次郎はここで瞑想をしていたそうです。さらに進むと、紅葉と緑の木々と苔が織り成す素晴らしい景色に出会いました。個人的な感覚なのですが、全山紅葉という景色より、緑の中の紅葉により魅力を感じます。

大乗閣前広場から東方望む

紅葉と苔の道の奥にこの景色を庭の一部として、茶室で登録有形文化財の滴水庵があります。出口近くに大河内傳次郎の資料館があり丹下左膳などの映画で活躍した、大河内傳次郎について写真やパネルで解説しています。コロナ禍の影響で 8 名の参加者でしたが秋の山荘を十分に楽しむことができました。

竹林の小道の脇道

所要があり先に失礼し、帰りは「竹林の小道」を通りました。時刻は 1 時前でしたが山荘内の静けさが嘘のように、道は人であふれていました。しかし脇道はなぜか人はいません。シャッターチャンス、この横は人・人・人です。途中、外国の人は『借景』や『静寂』や『木漏れ日』という意味の言葉をどう表現しているのだろうか、と思いながら帰りました。

（山下誠二）

■ NZ からの近況ご報告

ご無沙汰しております。オークランド在住の佐藤慎平です。早いもので、NZ へ移住して 11 年目となりました。前回の寄稿から約 3 年ぶりとなりますが、おかげさまで妻の真弓、4 月で 7 歳になる娘の環（たまき）と 3 歳の息子の清吾ともども元気にしております。

ここオークランドは、2023 年の年明けから雨天が続きました。こちらに来てから 10 年が経ちましたが、こんなに天気の悪い夏は初めてでした。それもそのはず、今年の 1 月のオークランドの降雨量は観測史上（約 170 年？）で最も多かったそうです。特に 1 月 27 日からの数日間で局地的な雨が降り、オークランド各地で洪水や地滑りなどの自然災害が起こりました。残念ながら、亡くなった方、家や財産を失った方もいらっしゃいます。私が住んでいる家には何の問題もなかったのですが、近所のいたるところで水浸しになっていたので、運がよかったとしか言えません。これを寄稿している時点（2 月初旬）では、洪水後の後処理が長引きそうですが、一日でも早く復興が進んでほしいと願っています。

さて、以前の寄稿でお伝えいたしましたが、私は、2016 年からオークランドにある法律事務所 Rosebank Law（代表：西村純一弁護士）で働きながら、AUT（オークランド工科大学）の Law School で法律を学んでおりました。それから 6 年半が過ぎ、2022 年 11 月に NZ 法曹資格を取得し、ようやく NZ 弁護士になることが出来ました。この数年間は、勉強に仕事に育児となかなか忙しい日々が続きましたが、妻のサポートのおかげで乗り越えることができました。そして、この場をお借り

し、応援して下さった NZ 協会の皆さまにお礼申し上げます。

私は、2022 年 11 月に NZ Law Society（弁護士協会）に正式に弁護士として登録をしました。ちなみに私が調べた限り、日本人の NZ 弁護士は NZ 国内で 5 名ほどしかいないようです。NZ で弁護士になるためにはいくつかのステップがありますが、NZ 国内にある大学の Law School（4 年間）で法学士を取得すること、法学士取得後に法曹専門コース（5 か月）へ行きパスすること、高等裁判所において法曹協会への登録(Bar Admission)を行っていること、弁護士事務所で弁護士として雇用されていることの 4 つとなります。なお、NZ には日本でのいわゆる難関の一発勝負の司法試験がないため、Law School さえ卒業できれば、NZ 弁護士になれるチャンスは十分あります。もし、司法試験があったら、私は初めから挑戦していなかったと思います(笑)。

Law School 卒業式

ただ、Law School が簡単かというと、私の場合は全くそうではありませんでした。まず、基本的に英語が現地の学生とはかなりの差があります。現地の学生は私よりも読み書きのスピードは 3 倍はあったと思います。先生と学生の会話についていけないこともしばしばありました。そして、慣れない法律用語に加えて、勉強量もなかなかのものでして、読む量がほかの学部に比べて多いようです。私は、だいたい平日の週 3 日を仕事、週 2 日を学校というスケジュールだったのですが、子供が寝ている早朝か深夜を勉強時間にあてていました。いずれにせよ、評価対象となる提出物と期末試験で結果を残さなければならなかったので、大学期間中はいつもストレスを感じていました。試験に関して、ほとんどの科目では、自作の限られた資料（A4 用紙 9 ページまで）を持ち込んでもよいことになっており、それにできる限りの情報を詰め込みます。期末試験の制限時間は 3 時間あり、10 回以上の試験を乗り越えてきましたが、毎回 3 時間がとても短く感じました。すべて良い成績という訳ではありませんでしたが、幸い、一つの科目も取りこぼさずに卒業することができました。

Law School が学術的な内容であるのに対し、その後の法曹専門コースはより実務的な内容を勉強します。私の場合、コロナの影響もあったことから、すべてオンラインで受講しました。内容としては、弁護士としてクライアントのお金をどのように扱うのか、弁護士の義務とは、不動産売買の書類の読み方、契約書のドラフト方法、和解交渉の練習、オンラインで行う模擬刑事裁判等々。5 か月間かなり内容の詰まったコースでしたが、何とかパスすることができました。そして、2022 年 11 月に無事にオークランド高等裁判所にて Bar Admission を行い、同月 NZ 弁護士として登録することができました。

佐藤ファミリー

私は、2023 年 2 月時点、7 年間アシスタントとして働いている Rosebank Law にて、そのまま弁護士として在籍しています。従業員 4 名（弁護士 2

名）の小さな事務所ではありますが、日本人のクライアントから多種多様なお問い合わせをいただいています。私は、主に移民法（ビザ）、雇用法、ビジネス売買、遺産相続などを専門としています。まだ新人弁護士ではありますが、7 年間のアシスタントとしての経験がありますので、対応したことのある案件はスムーズに業務を行うことができています。これから自分がどのような案件でお手伝いすることになるのか、楽しみでもありますが、弁護士という肩書になった以上は責任の重さも感じています。NZ 協会の皆さまやお知り合いの方で NZ 国内でお困りのことがありましたら、もしかするとお役に立てるかもしれませんので、お声をかけてください。

（佐藤慎平）

■ラグビーワールドカップが開催されます

第 10 回ラグビーワールドカップが 9 月 8 日から 10 月 28 日までフランスのボルドー他 8 か所で行われます。

私が知っている範囲で紹介します。前回は南アフリカが優勝しました（ニュージーランドは 3 位・日本は予選リーグ 1 位通過しベスト 8）。ラグビー王国のＮＺは、優勝候補ですが、最近のラグビーの情報では、フランスが強いようです。日本（監督は NZ 人ジェイミー・ジョセフ氏）が昨年の秋にＮＺ，イングランド、フランスとテストマッチを行い、良い経験を積みましたが、同じ時期に、ＮＺや南ア、イングランド、フランスがテストマッチを行っています。その試合内容からはフランスが強いと注目されています。今回のＷ杯でもＮＺとフランスは優勝候補と思います。20 チームが 4 つのプール（グループ）に分れ、予選リーグを戦います。日本はプールＤに入り、イングランド、アルゼンチン、サモア、チリと対戦します。イングランドとアルゼンチンは、世界ランキングでも日本より上位で、サモアも同じレベルにあります。ＮＺはプールＡに入り、フランス、イタリア、ウルグアイ、ナミビアと予選リーグを行います。プールＢでは南アとアイルランドかスコットランドが、プールＣではウェールズと豪州（オーストラリア）の勝ち上がりが予想されます。しかし、近年の日本のように予想を覆すようなことが多くなりました。ラグビーの試合は、各チーム１週間に１試合の間隔で組まれます。そのため、Ｗ杯は５０日間の長い開催になります。ラグビーファンには楽しみな時間です。ＮＺと日本の活躍を期待します。

ここで、私の記憶に残るＮＺのラグビー選手のことを書きます。その選手はジョナ・ロムー（１９７５～２０１５）さんです。彼は、トンガからの移民の両親を持ち、オークランドで過ごしました。第３回（１９９５年）と第４回（１９９９年）ラグビーＷ杯のトライ獲得王です。身長１９６ｃｍ、体重１１９ｋｇの俊足ウィングバック（100ｍを 10 秒台で走る。）です。彼と対峙する選手は、負傷を覚悟してタックルをしなければなりません。テレビ中継でＷ杯を観ていた私はそのプレイの豪快さに驚きました。対戦する代表選手達が彼の突破を止めることができず、引きずられ、はじき飛ばされる姿に、「こんな選手は見た事が無い。人間業とは思えない。」と思いました。髪型もユニークでした。彼は、晩年（未だ若いですが）腎臓機能の悪化で苦しんだようです。

その彼と会ったことがあります。はっきりと覚えていないのですが、２００７年に日本代表ＶＳクラシック・オールブラックス（オールブラックスの経験者ＯＢチーム）で来日し、神戸の会場に来たことがあります。出場は１０分ぐらいだったと記憶しています。その時は、彼の身体状況を知らずに、何故だろうと思いました。試合後に彼に話をしました。（何故、試合後にグラウンドに私が入れて、彼と話ができたのか今でも分りません。）

その時、現役時代の姿とは随分違ったので、私は不思議に思いました。私は「あなたに会えてうれしいです。W杯の放送であなたの活躍を観ました。」のようなことを言いました。彼は、元気のない小さな声で「今はこの通りです。疲れたよ。」と話したように記憶しています。

J・ロムー氏

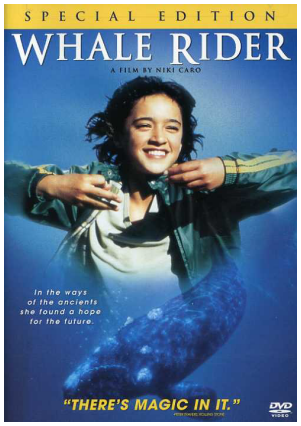
彼は４０歳の若さでこの世を去りました。オークランドのイーデンパーク・スタジアムで、かつてのラグビー仲間が彼の眠っている棺を囲んで全力で涙を流しながらハカ（ラグビーの試合前の戦闘舞踊）を行い、弔いました。

（貴志康弘）

■ 映画「クジラの島の少女」

ニュージーランドで制作された映画と言えば嘗ては「ラスト・サムライ」だが、近年は「ロード・オブ・ザ・リングス」「ナルニア国物語」「アバター」などウエリントン郊外にある WETA スタジオが制作する壮大なスケールの特撮作品を思い浮かべる人が多いのではないだろうか。しかし、2002 年から 2003 年にかけて世界の様々な国際映画祭で‘観客賞’を独占していった、決して派手ではないどちらかと言えば地味な人間ドラマの映画をご存知だろうか。ニュージーランドの海辺に在る小さなマオリの村で生まれ育ち数奇な運命をたどる少女が主人公の「クジラの島の少女(原題：Whale Rider)」である。

この映画が世界中の観客を魅了し感動を与えたのは、監督・脚本を務めたニュージーランド生まれのマオリ‘ニキ・カーロ’の力量もさることながら、主人公パイケアを演じた 11 歳の少女‘ケイシャ・キャッスル＝ヒューズ’の演技力と言えるだろう。一万人の子供の中からパイケア役に抜擢されたケイシャは数々の映画祭で演技賞を獲得するが、なんとこの映画がデビュー作だったのである。更にケイシャは 2004 年の米国アカデミー賞で堂々の主演女優賞にノミネートされ、映画界に大きな驚きを与えた。13 歳で同カテゴリーにノミネートされたのは最年少記録でもあったのだ。



物語は、ニュージーランド北島の東海岸に位置するファンガラ(Whangara)という村で起こった現代の話である。この村には、ニュージーランドの先住民マオリの先祖が住んでいたハワイキから、ずっと昔に新天地を求めて海に出た勇者パイケアが苦しい航海の途中でクジラに助けられ、この地にたどり着いたという伝説が語り継がれていた。村の神聖な集会場‘マラエ’の屋根の上には、その伝説を象徴するクジラに跨ったパイケアの雄姿が掲げられている。伝説を信じる一族は、代々男を族長として受け継いで来ていた。族長の長男は男女の双子を授かるが、不幸にも出産時に妻と後々族長を引き継ぐはずの男の子を亡くしてしまう。悲しみに打ちひしがれる長男は、古い因習に囚われ続ける父親との確執に耐えきれず、村を出て遠くヨーロッパへと旅立った。残された女の子は、男以外の後継者を認めず孫娘の誕生を心から喜べない族長の祖父と、愛情を持って優しく見守る祖母の元で育てられることになった。

父親から伝説の勇者パイケアと同じ名前を授かった孫娘が 12 歳になったころ、年老いてきた祖父は新たな後継者選びを急ぐことにした。村の少年たちをマラエに集めて部族の伝説や伝承歌を教え、戦闘技術やハカなどの訓練を始める。女の子であるがため訓練に加えてもらえないパイケアはマラエの陰から盗み見て学ぼうとするが、祖父から「マラエに女が来ることは神聖な場所を乱す」と激し

く叱られてしまう。大好きな祖父に拒絶されたパイケアは女である自分の存在を恨み一人悩むが、孫娘を思いやる祖母から「叔父さん(父親の弟)は嘗て戦闘技術の名手だった」と密かに聞かされ、パイケアは祖父に内緒で叔父さんから訓練を受けることになった。

特訓を終えた少年たちに課された海での最終試練として、彼らを沖合に連れ出した祖父は、代々族長に伝わるクジラの歯の首飾りを海に投げ入れ「持って帰った者が次の族長となる資格がある」と告げる。しかし、一斉に海に飛び込んだ少年たちは誰一人持ち帰ることができなかった。族長選びに失敗して落胆し気力を無くしている祖父を思い、パイケアは首飾りを投げ入れた辺りへ叔父さんに舟で案内して貰い、一人海に潜って沈んだ首飾りを無事に持ち帰って来た。しかし祖父の心境を慮る祖母は、その首飾りを直ぐには祖父に渡さず暫く預かることにした。

学芸会でパイケアは祖父のために朗読を用意いていたが、祖父は会場に姿を見せることはなかった。涙ながらに発表する詩の内容は、伝説の勇者パイケアが祖父のように孤独に苛まれたとき祖先に力を与えてくれるよう祈ったと伝わる話だったのだ。その頃、まるでパイケアの悲しい運命が呼び寄せたかのように、海の底からクジラの集団が浜辺に打ち上げられた。その状況を一族の不吉と感じて、祖父は村人たちと総出で終日クジラたちを海に戻そうと力を尽くすがびくともしない。皆は力尽きて諦め戻り始める中、呼び寄せられるようにパイケアは一人クジラに近付いて行く。クジラに寄り添い静かに祈を捧げて跨ると、それに応えてクジラは海に向かって動き出した。クジラの背中に乗って沖へと向かっていく姿は、伝説の勇者‘ホエール・ライダー’の魂を受け継ぐ者の雄姿そのものだった。その姿を遠くに目撃した村人たちは驚き、海の彼方へ消え去る孫娘に呆然と佇む祖父に祖母は族長の首飾りを手渡し、パイケアが持ち帰ったことを伝える。そして、クジラと共に海の底へと沈んで行くパイケアは、次第に意識を失っていった……

次の日も悲しみに暮れる祖父の元に一本の電話が有り、意識を失した孫娘が病院に運び込まれたことを知る。パイケアの不思議な運命と奇跡に出会い、孫娘こそが伝説の勇者の血を受け継ぐ唯一の継承者だと心底認めた祖父は、ベッドに寄り添い回復を願い続けた。その後、無事意識を取り戻したパイケアと共に、村には明るい希望と未来が蘇るのだった。

この映画のキャスティングは全てマオリ系の人たちで制作された。そしてロケは、原作者‘ウィティ・イヒマエラ’の故郷であるニュージーランド北島の東海岸、イーストケープの付け根に当たるギズボーンの北 29km に位置するファンガラで行なわれた。この村には撮影のために取り付けたのではなく、昔から本当にクジラに跨る男の彫刻が屋根の先端に据えられたマラエが有ると聞いた覚えのある私は、嘗てイーストケープをぐるりと回りギズボーンに向かう旅行の途中で是非立ち寄ってみたいと思ったことがあった。ところが、寄り道する機会を逸した私は今でもそのことが残念でならない。

ニュージーランドの人口割合はマオリ系が16.5%(2018 年国勢調査)と言われているが、現在純粋なマオリは殆ど居ない筈だ。では、ハーフかクオーターか……何処までがマオリ系に分類されるのか疑問に思ったことが有った。どうやら血の濃さでは無く、自分はマオリであると国勢調査のときにマオリの欄に✓を入れた人の割合のようだ。

オーストラリアのアボリジニ、アメリカのインディアン、日本のアイヌなどのように先住民が限られたエリアに集まって暮らすのではなく、東京生まれ育ちの私が関西で暮らすようにマオリ系住人はごく普通に全国で暮らしている。役所や銀行を始めとするあらゆる職場で、学校のクラスメートとして、時には隣人として、身近で当たり前のこととして生活の中でマオリ系の人たちと接する

機会があるというのは、いかにもニュージーランドらしいと言えるのではないだろうか。

（松沼清司）

■　3年振りのワイカト大学訪問

2月21日オークランド空港に到着しました。同空港に、既にNZ入りをしていた小池君が出迎えてくれました。彼が次期ワイカト大学日本事務所長となります。彼は220名ほどワイカト大の語学学校に来ている学生や引率教員達のケアをしていました。空港からハミルトン間の道路が驚く程変っています。コロナ禍前から行われていた高速道路工事が完成していまして、それは日本の道路に劣らない素晴らしいものでした。

私のワイカト大学訪問は3年振りで、私にとって最後の訪問であることは大学のスタッフも理解しています。抱き合っての挨拶となりました。

左から二番目筆者

日本事務所がコロナ明け直後に220名もの学生を送ったことを学校側が大変感謝してくれていることを感じました。

10日間ほどの滞在の、ハミルトンを離れる2日前に、所長のサイモン氏から「明日午前10時45分に大学に来てください。その前でもなく、後でもなく！」との要請がありました。変な指示だな！と思いつつ指示通りその日時に語学学校の建物に入りました。そこにはトップ3人が並んで待ってくれていまして、サイモン所長が入口の横にある部屋の入口を差し示しました。そこには特別に作った美しいボードがあり、「MATSUMOTO ROOM」と表示されていました。その部屋に入ると私の若かりし時の写真など3枚の写真がフレームに入れられていました。サイモン所長は「これを永久にこの場に掲げる」とのこと。一瞬涙が出ました。そしてサイモン所長達と日本での再開を誓いあいました。ワイカト大学日本事務所長として34年間が終わりましたが、ワイカトの人的つながりは今後も続くと思います。

帰途のオークランド空港で人生初の出来事に遇いました。色々なものが入った財布を紛失したのです。私が愛する国での出来事で、あえて盗難とは言いません！

喜びと哀しみの混ざりあった訪問でした。

（松元舜）

■　「ニュージーランドに魅せられて」川瀬勇追想・遺稿集　（電子版）の閲覧方法

日本ニュージーランド協会のご厚意で、川瀬先生の遺稿集を著作者の許諾をいただけた部分を電子化いただいております。電子版はPDF化されてクラウドで共有されていますので、その閲覧方法（２０２３年３月現在）を解説します。

まず、当協会のウェブサイトのトップにアクセスします。次に、下記画像に赤丸印で示された「ニュージーランドに魅せられて　川瀬勇追想・遺稿集　（電子版 Ver.1.0)」のリンクをクリックします。

HPの表紙

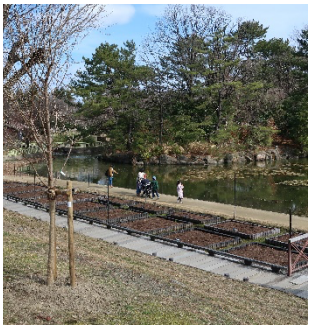
リンクをクリックすると、次の画像のように、クラウド（Dropbox）で電子化された PDF ファイルが表示されます。

（山下明）

■　オニール・八菜さんエトワールに（吉報）

会報２０１９年６月号でご紹介した Hannah O‘Neill さんがパリ・オペラ座バレー団のエトワールに今年の３月に任命されました。父親は NZ 人の元ラグビー選手、母親は日本人の元 CA で、１９９３年生まれです。検索すれば彼女の優雅なバレーが鑑賞できます。

■　創立５０周年記念植樹　（長居植物園）



１月２３日（月）植物園の池の北側に大島桜を１本、林進会員のご協力をいただき植えました。高さ約３ｍ、周囲約３０ｃｍですが、今年から花が咲くようです。４月１６日の総会時には散ってしまうようですが、２年後の５５周年には立派に成長していると思います。場所は同封のパンフレットに印をつけています。植物園に来られたらお立ち寄りください。16 名の方からご寄付をいただいておりますが、費用の 3.8 万円には半額不足しておりますのでご協賛をお願いします（１口１０００円）。

２３年度の年会費に合わせてお振込みいただければ幸いです。

■　５０周年記念マグカップ

在庫が少なくなりました。桜とシルバーファーンのロゴは好評をいただいております。
（松沼清司理事デザイン）電子レンジ耐用です。
手渡し・郵送で配布しております。
１個１０００円・送料４００円（税込み）ご希望の方は事務局にご連絡ください。

■　運営・行事などへのご提案

皆さんからのご提案等をお寄せください。

■　ご寄稿お願い

NZ に関すること（文化・社会事情・旅行等）のご寄稿をお待ちしています。
次号、６月号の締め切りは５月末の予定です。

■　新会員募集

ＮＺに関心ある友人等のご紹介をお願いします。

■　年会費のご請求

ご承知の通り、当会は皆さんからの年会費（3000 円）で運営しております。
4 月から 7 月末までに下記へお振込みください。
手数料はご負担ください。よろしくお願いします。

・ゆうちょ銀行　記号：14110　番号：56529351
・普通口座：5652935
　　名義：日本ニュージーランド協会（関西）